

Archicad29

「実施設計テンプレート」

使い方ガイド



目次

はじめに.....	1
ダウンロード方法およびコンテンツ	2
システム条件	2
使いはじめるまでのステップ	3
ライブラリについて	5
内容	5
使い方	6

はじめに

「Archicad 実施設計テンプレート」は実施設計の段階で必要になる豊富なコンテンツを揃えた実務向けのテンプレートです。Archicad のパッケージに含まれるデフォルトテンプレートの内容に加え、国土交通省「建築工事標準詳細図」およびメーカー標準詳細図を参考にした日本仕様のコンテンツを提供し、標準的な建物のモデリングおよび設計図書作成をサポートします。

Archicad を使って実施設計を効率よく進めるには、テンプレートが不可欠です。Archicad の直感的なインターフェイスを活用してお客様ご自身でもテンプレートを簡単に作成できますが、『Archicad 実施設計テンプレート』を活用することによってこれにかかる時間と手間を大幅に削減できます。また、Archicad を初めてお使いの方、ご自身でのテンプレート作成にアイデアが欲しい方にもお勧めです。

こんな方におすすめします：

Archicad でできることを体験したい方

- モデリングを行うだけで、各種図面、一覧表が自動的に生成される Archicad のワークフローを体験することができます。

すぐに Archicad を実務で使ってみたい方

- 日本仕様の豊富なコンテンツを揃えているため、部材作成などの時間を節約して、すぐにプロジェクトを開始いただけます。

ご自身のテンプレート作成の参考にされたい方

- 「Archicad 実施設計テンプレート」に蓄積されたノウハウを、ご自身のテンプレート作成に活用いただけます。

ダウンロード方法およびコンテンツ

「Archicad 実施設計テンプレート」はこちらの WEB ページからダウンロードいただけます。

<http://www.graphisoft.co.jp/download/template/>

ダウンロードできるコンテンツは次の通りです。

- Archicad29 実施設計テンプレート.tpl
- テクスチャ_実施設計テンプレート.lcf
- 実施設計テンプレート使い方ガイド.pdf

システム条件

- 対応バージョン：「Archicad29」および「Archicad29 Solo」で使用いただけます。
- OS：Windows および Mac OS で使用いただけます。
- システムおよびハードウェアスペックは、使用する Archicad に準じます。
- Extensions JPN(旧 Forward ツール)が必要となります。
(<https://graphisoft.com/jp/resources-and-support/forward> こちらよりダウンロードしインストールをお願い致します。

使いはじめるまでのステップ

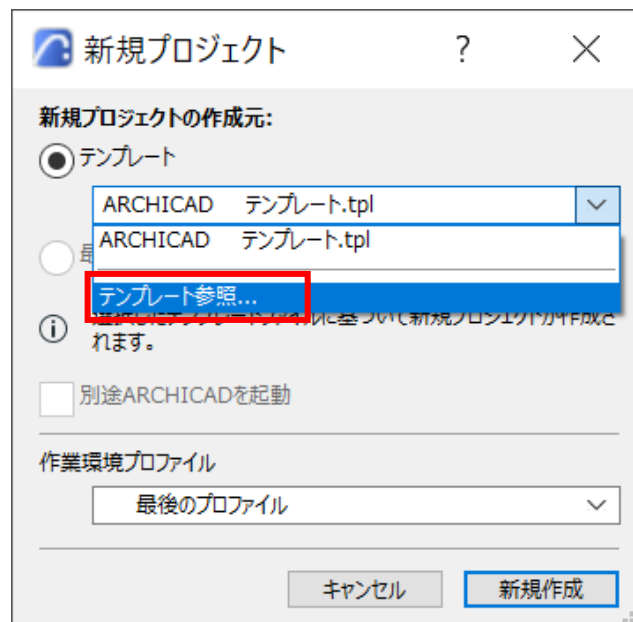
「Archicad 実施設計テンプレート」を使いはじめるまでのステップは次の通りです：

1. Extensions JPN(旧 Forward ツール)をインストールしましょう。
(<https://graphisoft.com/jp/resources-and-support/forward>)こちらよりダウンロードしインストールをお願いします。
2. 「Archicad29 実施設計テンプレート.tpl」をデスクトップなど探しやすい場所に保存します。
3. Archicad29 を起動します。
4. 「新規作成」をクリックします。



5. 「新規プロジェクト」画面が表示されますので、保存した場所から「Archicad29 実施設計テンプレート.tpl」を選択します。

「テンプレート参照」をクリックします。



6. テンプレートを選択する画面が出てきますのでダウンロードした「Archicad29 実施設計テンプレート」を選択します。
7. 新規作成をクリックします。
8. Archicad が起動すると、ワークシートの注意事項が最初に表示されます。
9. ファイル→ライブラリとオブジェクト→ライブラリマネージャーより、一緒にダウンロードされている「テキスト_実施設計テンプレート」を追加します。
10. 再ロードと適用をクリックし、ロードが完了したら OK をクリックします。

ライブラリについて

「Archicad29 実施設計テンプレート.tpl」は次のライブラリを使用しています：

- Archicad Library 29

これらは Archicad29 / Archicad29 Solo のデフォルトライブラリです。万が一欠落している場合は、ライブラリマネージャーを使って Archicad インストールフォルダからリンクライブラリとして追加してください。

- テクスチャ_実施設計テンプレート.lcf

こちらは実施設計テンプレートと一緒にダウンロードされているライブラリコンテナファイルです。ライブラリにある画像ファイルは、タイルなどの材質（＃204～300）で利用されています。

内容

「Archicad29 実施設計テンプレート」には、Archicad のパッケージに含まれるデフォルトテンプレートの内容に加え、以下の内容が含まれています。

- 複合構造：壁、床、天井など外装および内装で使用するもの（250 点以上）
- 断面形状：パラペット、鉄骨部材など（170 点以上）
- 材質：各種タイルなど（90 点以上）
- 一覧表：エクセルと連携して使用可能な仕上げ表と建具表
- レイアウトブック：各種図面が配置された実施設計図書の各レイアウト
- ビュー：クローンビューを使用した各種図面設定
- ビルディングマテリアルの分類セット

使い方

「Archicad 実施設計テンプレート」は、モデリングを行うだけで各種図面、一覧表が自動的に生成される仕組みになっており、Archicad のワークフローを体験することができます。また、豊富なコンテンツが用意されているため、標準的な建物の場合はすぐに実務で使っていただけます。

実際のプロジェクトでは階数、面積などによってテンプレートの内容を調整する必要がありますので、最初に試していただく際にはデフォルトの設定を使用して、以下のポイントに沿って架空の建物の BIM モデルを作成することをおすすめします。

- 「デザインメニュー」の「通り芯設定」からデフォルト設定で通り芯をプロジェクトの原点に配置します。立面図マーカーで四方に囲まれたエリアの中心に通り芯が作成されますので、これを基準にしてモデリングします。
- 階数はデフォルトで地上 3 階建てに設定されています。最初は階数、階高を変更しないでモデルを作成します。
- 各要素タイプのお気に入りが入用されていますので、それらを使ってモデリングを行います。
- 「ナビゲータ」の「ビュー一覧」に各種ビューが用意されていますので、これらを活用します。
- 「ナビゲータ」の「レイアウトブック」に設計図書の各レイアウトが、A1・A3 が用意されています。これらには図面が配置済みですので、モデリングすると図面が自動的に表示されます。
- 設計図書を完成させるステップは次の通りです：
 - 表紙に必要な情報を記載します
 - 図面リストは自動的に作成されます
 - 特記仕様書の該当する箇所に円ツールを使って印をつけます
 - 概要書、外部仕上表はテキストツールを使用して記載します
 - 案内図は地図などを外部図面として配置します
 - 求積図はワークシートに作成します
 - ◇ 求積図の自動作成には「求積ツール Light for ARCHICAD」をおすすめします。
ダウンロードはこちらから：
<http://www.graphisoft.co.jp/download/addons/kyuseki/>
 - 面積表は自動的に作成されます（ゾーンの配置が必要です）
 - ◇ 「ゾーン設定」>「カテゴリとプロパティ」の「面積情報」を活用します
 - 内部仕上表は自動的に作成されます（ゾーンの配置が必要です）
 - ◇ 「ゾーン設定」>「カテゴリとプロパティ」の「内部仕上情報」を活用します
 - ◇ 効率的な入力にはエクセル連携機能を活用します
 - 配置図の一部はモデルから作成されます

- ◇ 線ツールなどで必要な加筆を行います
- 各階平面図、立面図、断面図、平面詳細図、断面詳細図はモデルから作成されます
 - ◇ 寸法作成や書き込みは手動で行います
- 展開図はマーカーを各部屋に配置し、ビューを作成します
 - ◇ 展開図レイアウトに複数のビューを同時にドラッグすると、自動的に配列されます
- 各階天井伏図、各階建具キープランはモデルから作成されます
 - ◇ 寸法作成や書き込みは手動で行います
- 建具表はモデルから作成されます
 - ◇ 「ドア/窓設定」>「カテゴリとプロパティ」の「建具情報」を活用します
 - ◇ 効率的な入力にはエクセル連携機能を活用します
 - ◇ 建具表がレイアウト枠からはみ出す場合は「テーブルを再構築」機能を使って枠にあわせてます
- 部分詳細図は、線ツールなどで作成するか、標準詳細図を外部図面として配置します

この方法で一通りお試しになりましたら、必要に応じてカスタマイズしたテンプレートを実務でご活用ください。